

太閤堤跡歴史公園の工事はストップすべき

80億円のPF1事業 太閤堤歴史公園は見直しを!

宇治市は10月15日に閉会した9月定例会に「(仮称)太閤堤跡歴史公園整備事業」に係る債務負担行為の設定を補正予算に計上しました。これについて議会は「市民の理解が得られていない」と補正予算からPF1事業の関連経費の削除を決定しました。市長は工事をストップし事業の見直しを行うべきです。

歴史公園 現市長のもと大規模に

この計画は、太閤堤の再現展示、修景茶園、地域・観光交流センター、庭園などを造り、設計、建設、維持管理、運営を20年にわたって民間事業者に委ねるPF1方式を導入する事業です。

レストラン・喫茶、ミュージアム、ショップ、貸し会場(会議室・研修室・実習室)等を盛り込んだ複合施設を建設するものです。
用地費、設計・建設費に約80億円。維持管理費に24億円(15年間)を見込んだ巨大大業に膨れ上がりました。

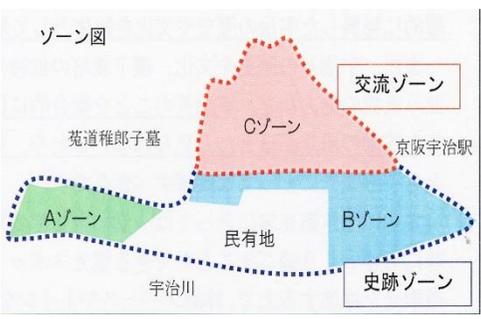


PF1継続の姿勢や工事入札は議会軽視

9月定例会後、市はホームページに事業者募集要項の公表を「延期」と記載しました。その後「史跡ゾーン」のうち「Aゾーン」の整備について工事の入札を行いました。

10月29日の決算委員会では「直営で行う史跡ゾーンの整備は2019年度をメドに行う」と答弁しており、継続を示唆しました。

史跡ゾーンの設計、建設は市直営ですが、歴史公園の維持管理、運営は民間事業者が行うもので明らかに一体の事業です。



このPF1方式に「待った」がかかり、維持管理、運営の見通しがないままでの史跡の工事継続は、議会軽視と言わざるを得ません。

機能移転の公民館 公益性保証は不透明

市は、宇治公民館・市民会館を廃止し、歴史公園の観光交流センター内に会議・研修施設を設け「機能移転」をすることをします。



しかし、施設の管理運営はPF1事業者が行うため収益優先の民間企業が公民館の利用を優先させる保障はどこにもありません。議会答弁でも、都市整備部長は「地域交流センターは有料施設」としています。

現状で年間6万人超の利用者がある公民館の公益性をどのように担保するのか「計画概要」でも全く明らかになっていません。公益性の高い公共事業にPF1がなじまないのは明らかです。

市民のための市政実現を!

巨額の税金をつぎ込むだけでなく、公民館・市民会館が廃止されることについて、市民から多くの疑問や不安、怒りの声が上がっています。

党議員団は議会軽視の市の姿勢を厳しく批判するとともに、「巨大大業を見直し、市民の声に耳を傾け、生活応援の市政を」と求めています。



議員団だより9月号の訂正

議員団だより9月号の記事で「政治倫理基準」と「政治倫理審査会」の設置をする議会基本条例改正案の提案は「議会運営委員会」ではなく、「共産党議員団」が行いました。訂正してお詫びいたします。

日本共産党宇治市議会議員団
議員団だより 2015年11月号
TEL: 20-8749 FAX: 24-7884